



第35期 中間報告書

2006年4月1日から2006年9月30日まで

ローランド株式会社

証券コード 7944

創造の喜びを世界にひろめよう

BIGGESTよりBESTになろう

共感を呼ぶ企業にしよう

ローランド独自の企業活動の根底にある精神は、上記3つのスローガンに集約されます。これこそ当社の企業としての意志であり、無限の可能性を秘めた音創りの明日に向かって、果てしなく広がる、大きな夢の原動力にほかなりません。これからのローランドにどうぞご期待ください。

Contents

株主のみなさまへ	02
営業の概況（連結）	03
中間連結財務諸表（要旨）	05
中間単独財務諸表（要旨）	07
マルチブランド	08
新製品のご紹介	09
トピックス	11
特集	12
会社の概況	13
株式の状況	14

株主のみなさまへ

株主のみなさまには、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

当社第35期中間期（2006年4月1日から2006年9月30日まで）の事業概要および中間決算につき、ご報告申し上げます。

当中間期の業績につきましては、電子楽器事業では、電子ドラムおよびギター関連機器が好調に推移し、コンピュータ周辺機器事業においても、業務用大型カラープリンターおよび低溶剤系インクが好調に推移した結果、連結、単独決算ともに、前中間期と比較して増収、増益となりました。中間配当金につきましては、期初の予想通り、前中間期に比べて2円50銭増配の、中間15円（年間配当金は1株につき30円の予想）とさせていただきます。

「創造の喜びを世界にひろめよう」-このスローガンのもとに、ローランド・グループは着実に事業領域を広げ、ビデオ編集機を中心とした映像分野にも注力しています。イメージを音にする、映像にする、形にする、それを組み合わせる、これが我々のチャレンジです。

質的な豊かさが求められるようになった今日の社会において、「創造」のフィールドはより多様化、個性化し、我々が果たすべき役割はさらに大きくひろがっていきます。この大きな変化に柔軟に対応し、多くの世界初、日本初の製品を生み出してきた技術力と、グローバルな事業体制をベースに、ローランドは新たな成長を目指してまいります。また、「創造」という文化を担う一企業として、常にその社会的責任を強く認識し、全てのステークホルダーにとって「共感を呼ぶ企業」となるよう、「BEST」を尽くしてまいります。

株主のみなさまにおかれましては、今後ともご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2006年12月



取締役会長
檀 克義



取締役社長
田中 英一

営業の概況(連結)

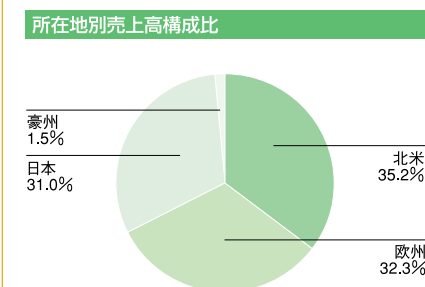
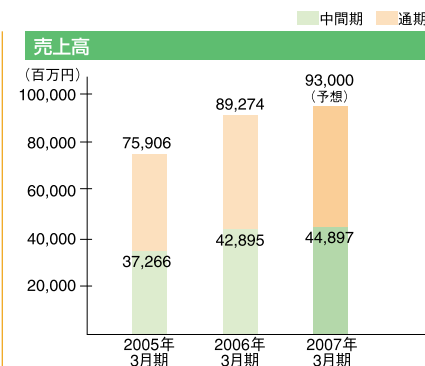
業績全体の概況

当中間期の経済環境は、国内においては好調な企業収益の改善に伴う設備投資の拡大や、雇用・所得環境の改善による個人消費の増加が続き、緩やかに景気の回復が進みました。また、北米では景気の拡大テンポに鈍化は見られたものの、欧州では引き続き個人消費の拡大が続きました。

このような経営環境の中、電子楽器事業では引き続き付加価値の高い商品開発に重点を置き、国内外関係会社を軸にしたグローバルな流通ネットワークにより、マーケットへの浸透を進めてきました。前期に引き続き、国内外を通じて電子ドラム等の電子楽器カテゴリーが好調に推移しました。

一方、コンピュータ周辺機器事業では、需要拡大が期待できる「カラー（業務用大型カラープリンター）」と「3D（3次元入出力装置）」の二分野を中心に積極的な事業展開を図り、特に海外でのプリンターを中心とした販売が好調に推移しました。

上記の結果、全体では売上高は44,897百万円（前年同期比4.7%増）、営業利益は4,721百万円（前年同期比20.3%増）、経常利益は5,055百万円（前年同期比20.9%増）、中間純利益は1,831百万円（前年同期比44.8%増）となりました。



		(2005年3月期)		(2006年3月期)		(2007年3月期)	
		中間期	通期	中間期	通期	中間期	通期(予想)
連結	売上高 (百万円)	37,266	75,906	42,895	89,274	44,897	93,000
	経常利益 (百万円)	4,235	7,337	4,179	9,004	5,055	10,900
	当期純利益 (百万円)	1,496	2,398	1,264	3,208	1,831	3,700
	1株当たり当期純利益 (円)	59.61	92.43	50.36	124.65	72.92	147.35
単独	売上高 (百万円)	16,390	32,504	16,697	33,457	18,562	36,600
	経常利益 (百万円)	1,832	2,631	1,822	3,080	2,482	3,600
	当期純利益 (百万円)	1,282	1,797	1,164	1,985	1,477	2,200
	1株当たり当期純利益 (円)	51.08	70.03	46.38	77.33	58.85	87.61

セグメント別営業の概況

電子楽器事業

「電子楽器」は、国内・海外ともに電子ドラムが前期に引き続き堅調であったことに加え、ギター用の小型アンプ等の新製品投入により、楽器用アンプやエフェクターが好調に推移し、前年同期を上回りました。

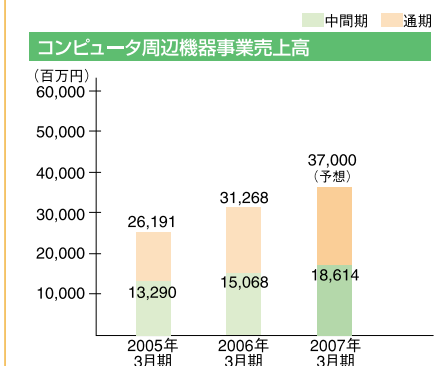
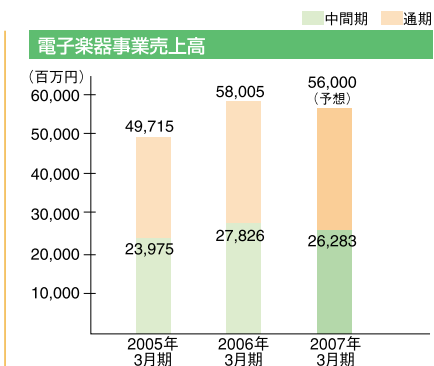
「家庭用電子楽器」は、低価格化が進む電子ピアノ市場において、国内では新しいインショップ展開など積極的な営業活動により順調に推移しましたが、海外での中価格帯製品の売上減少の影響を受け、僅かながら前年同期を下回りました。

「音響機器」は、デジタル・レコーダーの普及価格帯機種の販売が順調に推移しましたが、高額機種の販売量の衰えなどによる販売単価の低下により、全体では前年同期を下回りました。

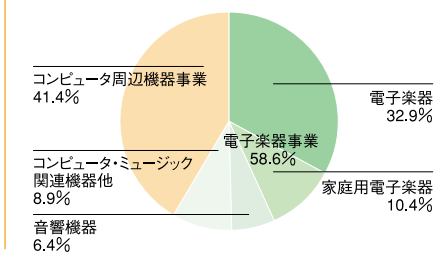
「コンピュータ・ミュージック関連機器他」は、ポータブルタイプのレコーダーの市場投入が販売に大きく貢献しましたが、前年同期の当セグメントに連結計上したAllans Music Group Unit Trustが、前期中に楽器関連小売部門を第三者へ事業譲渡したことにより、同社を連結除外したため、全体では前年同期を大幅に下回りました。

コンピュータ周辺機器事業

インクジェットプリンターのスタンダード機種が安定した需要に支えられ好調であったことに加え、新製品投入が売上に貢献しました。さらに前期に発売し、大ヒットとなった低溶剤インクも引き続き順調で、サプライ商品も売上を伸ばしました。また「3D」の分野では、切削機の上位機種を市場投入し売上を伸ばしましたが、メタルプリンタが新製品への切替えや在庫調整もあり、僅かながら前年同期を下回る結果となりました。



事業セグメント別売上高構成比



中間連結財務諸表(要旨)

連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科 目	当中間期 2006年9月30日現在	前中間期 2005年9月30日現在	前 期 2006年3月31日現在
資産の部			
流動資産	57,622	51,619	53,556
現金及び預金	21,973	18,946	20,616
受取手形及び売掛金	11,302	10,452	11,311
たな卸資産	19,379	17,694	16,892
その他	5,410	5,098	5,325
貸倒引当金	△443	△571	△588
固定資産	29,060	25,478	28,181
有形固定資産	17,638	17,268	17,638
建物及び構築物	8,073	6,861	8,159
工具器具備品	2,022	1,962	1,919
土地	6,377	6,649	6,673
その他	1,165	1,796	886
無形固定資産	1,715	1,405	1,434
投資その他の資産	9,705	6,804	9,108
投資有価証券	4,474	2,933	4,573
その他	5,266	3,916	4,569
貸倒引当金	△35	△45	△34
資産合計	86,682	77,098	81,738

(単位:百万円)

科 目	当中間期 2006年9月30日現在	前中間期 2005年9月30日現在	前 期 2006年3月31日現在
負債の部			
流動負債	14,829	10,777	11,725
支払手形及び買掛金	5,199	4,148	4,477
短期借入金	2,170	869	953
その他	7,459	5,759	6,294
固定負債	2,404	2,734	2,573
負債合計	17,234	13,512	14,298
少数株主持分	—	12,828	13,915
資本の部			
資本金	—	9,274	9,274
資本剰余金	—	10,800	10,800
利益剰余金	—	32,849	34,479
土地再評価差額金	—	△1,498	△1,498
その他有価証券評価差額金	—	551	807
為替換算調整勘定	—	△541	341
自己株式	—	△678	△680
資本合計	—	50,757	53,524
負債、少数株主持分及び資本合計	—	77,098	81,738
純資産の部			
株主資本	55,258	—	—
資本金	9,274	—	—
資本剰余金	10,800	—	—
利益剰余金	35,864	—	—
自己株式	△681	—	—
評価・換算差額等	△253	—	—
少数株主持分	14,443	—	—
純資産合計	69,447	—	—
負債純資産合計	86,682	—	—

(注) 会計基準変更により、前中間期および前期は「資本の部」を、当中間期は「純資産の部」を記載しています。

連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科 目	当中間期 (2006年4月1日から 2006年9月30日まで)	前中間期 (2005年4月1日から 2005年9月30日まで)	前 期 (2005年4月1日から 2006年3月31日まで)
売上高	44,897	42,895	89,274
売上原価	25,114	24,483	51,273
売上総利益	19,783	18,411	38,000
販売費及び一般管理費	15,062	14,485	29,626
営業利益	4,721	3,925	8,374
営業外収益	547	413	1,008
営業外費用	213	158	378
経常利益	5,055	4,179	9,004
特別利益	225	97	369
特別損失	144	293	303
税金等調整前中間(当期)純利益	5,136	3,983	9,070
法人税、住民税及び事業税	2,297	1,685	3,412
法人税等調整額	△300	35	203
少数株主利益	1,307	998	2,245
中間(当期)純利益	1,831	1,264	3,208

連結株主資本等変動計算書(要旨)

当中間期 (2006年4月1日から2006年9月30日まで)

(単位:百万円)

科 目	株式資本					評価・換算差額等				少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株式資本合計	その他有価証券 評価差額金	土地再評価 差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
2006年3月31日残高	9,274	10,800	34,479	△680	53,874	807	△1,498	341	△349	13,915	67,439
中間連結会計期間中の変動額											
剰余金の配当(注)	—	—	△376	—	△376	—	—	—	—	—	△376
役員賞与(注)	—	—	△78	—	△78	—	—	—	—	—	△78
中間純利益	—	—	1,831	—	1,831	—	—	—	—	—	1,831
自己株式の取得	—	—	—	△1	△1	—	—	—	—	—	△1
自己株式の処分	—	0	—	0	0	—	—	—	—	—	0
連結子会社の除外に伴う変動額	—	—	8	—	8	—	—	—	—	—	8
株主資本以外の項目の 中間連結会計期間中の変動額(純額)	—	—	—	—	—	△74	—	169	95	528	623
中間連結会計期間中の変動額合計	—	0	1,385	△1	1,384	△74	—	169	95	528	2,008
2006年9月30日残高	9,274	10,800	35,864	△681	55,258	733	△1,498	511	△253	14,443	69,447

(注) 2006年6月の定時株主総会における利益処分項目です。

中間単独財務諸表(要旨)

単独貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科 目	当中間期 2006年9月30日現在	前中間期 2005年9月30日現在	前 期 2006年3月31日現在
資産の部			
流動資産	18,770	19,448	18,609
現金及び預金	7,304	8,291	8,456
受取手形及び売掛金	5,614	5,195	4,852
たな卸資産	3,433	3,275	2,969
その他	2,675	2,710	2,351
貸倒引当金	△257	△23	△20
固定資産	29,871	27,132	29,004
有形固定資産	9,174	8,927	8,908
建物	3,730	3,863	3,764
工具器具備品	872	672	771
土地	3,957	3,957	3,957
その他	614	434	415
無形固定資産	421	302	280
投資その他の資産	20,275	17,902	19,816
投資有価証券	16,683	14,900	16,490
長期貸付金	1,265	930	1,196
その他	3,045	2,753	2,819
貸倒引当金	△718	△680	△690
資産合計	48,642	46,581	47,613

単独損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科 目	当中間期 (2006年4月1日から 2006年9月30日まで)	前中間期 (2005年4月1日から 2005年9月30日まで)	前 期 (2006年4月1日から 2006年3月31日まで)
売上高	18,562	16,697	33,457
売上原価・販売費及び一般管理費	17,141	15,849	31,953
営業利益	1,420	847	1,504
営業外収益	1,064	983	1,588
営業外費用	2	8	12
経常利益	2,482	1,822	3,080
特別利益	19	2	45
特別損失	310	363	565
税引前中間(当期)純利益	2,190	1,461	2,560
法人税、住民税及び事業税	543	359	710
法人税等調整額	170	△62	△136
中間(当期)純利益	1,477	1,164	1,985
前期繰越利益	—	353	353
中間配当額	—	—	313
土地再評価差額金取崩額	—	83	83
中間(当期)未処分利益	—	1,434	1,941

(単位:百万円)

科 目	当中間期 2006年9月30日現在	前中間期 2005年9月30日現在	前 期 2006年3月31日現在
負債の部			
流動負債	4,250	3,855	4,178
買掛金	1,879	1,966	1,974
賞与引当金	752	759	760
その他	1,618	1,130	1,444
固定負債	313	393	347
負債合計	4,564	4,248	4,526
資本の部			
資本金	—	9,274	9,274
資本剰余金	—	10,800	10,800
利益剰余金	—	23,895	24,402
利益準備金	—	847	847
任意積立金	—	21,613	21,613
中間(当期)未処分利益	—	1,434	1,941
土地再評価差額金	—	△1,498	△1,498
その他有価証券評価差額金	—	540	789
自己株式	—	△678	△680
資本合計	—	42,332	43,087
負債及び資本合計	—	46,581	47,613
純資産の部			
株主資本	44,853	—	—
資本金	9,274	—	—
資本剰余金	10,800	—	—
利益剰余金	25,459	—	—
自己株式	△681	—	—
評価・換算差額等	△774	—	—
その他有価証券評価差額金	724	—	—
土地再評価差額金	△1,498	—	—
純資産合計	44,078	—	—
負債純資産合計	48,642	—	—

(注) 会計基準変更により、前中間期および前期は「資本の部」を、当中間期は「純資産の部」を記載しています。

マルチブランド

世界の音楽家に愛され、
信頼されている電子機器の総合ブランド

Roland

世界の音楽シーンをリードするローランド。プロ・ミュージシャンの愛機として、シンセサイザーや電子ドラム、レコーディング機器は、ステージやスタジオで活躍しています。またデジタルピアノや電子オルガンは、デジタルならではの多彩な機能を活用して、ご家庭や音楽教室で愛用されています。



自由に創りだす歓びをお届けする、
音と映像の編集機器ブランド

EDIROL

by Roland

コンピュータ・ミュージック、ビデオ編集機器の中心に展開する「エディロール」。高品位なサウンドの音楽制作や、音と映像の編集を、多彩な製品ラインナップでサポートしています。



伝統の技と先進技術が融合した、
クラシック・オルガンのブランド

RODGERS

最新のデジタル技術によって、豊かなパイプオルガン・サウンド、ハーモニー、大聖堂さながらの響きを再現した、本格クラシック・オルガンのブランド「ロジャース」。全国のホテルや世界各国の教会、音楽ホールなどで採用されています。



エフェクター世界No.1のシェアを誇る、
ギター関連機器ブランド

BOSS

エフェクター、デジタル・レコーダー、リズム・マシンなどのギター関連機器から、ギタリストの創造力を刺激する「音」をお届けしている『ボス』。世界中の有名ギター・プレイヤーや楽器ファンから、絶大な信頼と熱い支持を受けています。



音と映像のシステム・ソリューションにより
空間を演出するブランド

RSS

by Roland

イベントやコンサートPA、会議室や店舗等の音響機器をはじめ、公共施設、アミューズメント施設、商業施設などの「空間」を演出する業務用音響機器のブランド。EDIROLブランドで展開する映像機器とあわせた「音と映像のシステム・ソリューション」を提案します。



柔軟な発想で新市場を確立、
コンピューター周辺機器のブランド

Roland

デジタル技術の力で「イメージをカタチに」するブランド「ローランド ディー・ジー」。業務用大型カラープリンターや3次元入出力装置などから、さまざまなソリューション提案を行っています。



Synthesizer

SH-201

シンセならではの音づくりの楽しさが体感できる
アナログ・モデリング・シンセサイザー

SH-201は、本格的なシンセサイズを誰もが楽しめるアナログ・モデリング・シンセサイザーです。音づくりの基本に即したパネル・レイアウトで、ユーザー・レベルを問わずシンセサイザー本来の音づくりの楽しさを体感できます。フル・サイズ49鍵のコンパクトなボディは、優れた可搬性と演奏性を発揮。USB端子を装備することで、PCとの親和性を高めるなど、新たな音づくりの可能性を広げるモデルです。



V-accordion



FR-3

電池駆動可能で軽量な
Vアコーディオン登場

アコーディオンならではの個性豊かな表現力を受け継ぎ、さらに電子楽器が持つ新しい表現力を生みだすために開発されたVアコーディオンFRシリーズに、中型サイズで軽量なモデルが新登場。トップ・モデルのFR-7同様に、アコーディオン専用に開発したPBM音源を搭載し、圧倒的にリアルなサウンドを実現。ピアノ鍵盤のFR-3sと、ヨーロッパでスタンダードなボタン・タイプFR-3bの2モデルをラインナップ。

Guitar Amplifier

CUBE-30X/20X/15X

小音量でも迫力のサウンドが得られる
充実機能のギター用小型アンプ

小型で高性能なギター・アンプとして好評のCUBE-30/15が音質・機能をブラッシュ・アップ。さらに出力20Wのモデルを追加してラインナップが充実しました。Xシリーズ全機種にパワー・スクイザー機能やAUXインプットを搭載するなど、小型ながらも充実の機能を装備しました。



VIMA Recreational Keyboard

レクリエーション・キーボード『VIMA (ヴィーマ)』は、家庭に普及している液晶テレビや、ビデオカメラ、携帯音楽プレーヤーなどを接続し、楽器演奏経験のある人もない人も音楽や映像を楽しむことができる、新しいコンセプトのキーボードです。音楽と映像の楽しさが存分に味わえる最高級モデル「RK-500」と、『VIMA』の多彩な機能をコンパクトにまとめた「RK-100」の2機種をラインナップ。また、『VIMA』の楽しさを広げるコンテンツとして、誰でも親しめる名曲を集めた楽譜集と、それに対応したミュージックデータと静止画像を収録したVIMA用CD-ROM (VIMA TUNES)のセット『ドレミファ楽譜セット』も続々登場します。



RK-500

音楽と映像の多彩な楽しさを、心ゆくまで、
至福のひとときをかなえる最高級モデル



RK-100

VIMAの多彩な機能をコンパクトに、
場所を選ばず、音楽と映像の楽しさが味わえます



Digital Recorder

MICRO BR

BOSS BRシリーズの基本性能を手のひらサイズに凝縮、
SDカード採用のデジタル・4トラック・レコーダー

MICRO BRは、可搬性を極限まで追求した手のひらサイズのギターリスト向けマルチトラック・レコーダーです。エフェクト機能や内蔵リズム・トラックなど、BRシリーズの基本性能を受け継ぎながらも、本体重量130gという軽量／コンパクトなサイズを実現しました。



企業広告展開

ローランドはブランド・イメージの浸透を推し進めるために、かねてより企業広告を新聞に掲載し、積極的なPR活動を進めてまいりました。昨年来より「Play! Play! Play!」のメッセージで楽器を演奏する楽しさや躍動感を多くの方に伝えてまいりました。4月の日本経済新聞掲載の広告をスタートに、楽器を演奏する人の喜びの表情に触れる事により、ローランドの楽器を演奏する事の楽しさをアピールした広告を全国版の新聞紙面に連続掲載してまいりました。今後もより多くの方々に企業広告を通じ、ローランドというブランド認知を高めていただける様、さらなるPR活動に努めてまいります。

デジタルピアノ選びの新コーナー、ローランド・フォレスタ全国展開スタート

ローランドのデジタルピアノの幅広いラインナップが展示され、心ゆくまで見て、触れて、納得の1台を選んでいただくための店舗内専用ゾーンが「ローランド・フォレスタ」です。リビングをイメージした上質なスペースで、専門スタッフがお客様のニーズに対応、満足のいく商品選定をお手伝いいたします。国内ではデジタル楽器の新販売展開として「ローランド・プラネット」を2004年にスタートし、幅広いご支持をいただいておりますが、今回「ローランド・フォレスタ」は同様のコンセプトをファミリー層向けの高付加価値デジタルピアノを中心に実現させ



るものです。2006年7月より新宿を皮切りに提携得意先様の店頭にて展開を拡大、国内ではすでに26ヶ所に出店しております（2006年10月現在）。



BOSSブランド30周年

1976年に、BOSSブランドを使用した最初の製品CE-1（コーラス・アンサンプル=ギター用エフェクター）を発売以来、2006年は、BOSSブランドの30周年にあたります。BOSSは、ギター、ベースに関連する製品にフォーカスしたブランドとして、この30年間、常に革新的な製品をご提案してまいりました。1977年発売のOD-1よりスタートしたコンパクトペダル・エフェクター、その進化系であるツインペダル、マルチ・エフェクターGTやME、デジタル・レコーダーBRシリーズなどを次々に発売。何れもギタリスト/ベーシストの想像力を刺激する製品として、世界中で支持され続けています。30周年を機に、革新的であり続けてきたBOSSを、より多くのお客様にご認知いただき、BOSSブランドの価値、信頼度を高

めることを目指し、ワールドワイドなプロモーションを展開いたします。その一環として、“30 Years of Innovation”というキーワードを添えたロゴマークを基調にした広告を、国内外の専門誌において展開いたします。加えて各国合弁会社のインターネット・ホームページにおきまして、30年間にBOSSが送り出した機種を、軽快なアニメーションを使ってダイジェストで紹介するフラッシュ・ムービーを掲載し、幅広い年齢層にアピールいたします。またこれを機に原点に立ち返り、革新的であり続けることを目指し、新しい創造の楽しみの提案を続けてまいります。



新開発 デジタルピアノ用鍵盤のご紹介

Roland Piano Digital RG-3に搭載

ローランドは、最高級のグランドピアノと同様の高い質感と感触をもった新しい鍵盤『PHA II アイボリー・フィール鍵盤（エスケープメント付き）』を開発いたしました。『基材』+『表面材』の2ピース構造を採用することにより、優れた剛性感とともに、象牙調の白鍵と黒檀調の黒鍵による質感の高い外観を両立。また吸湿性のある新素材を採用するなど、徹底的に品質と性能にこだわった新しい鍵盤です。ローランドでは、デジタルピアノの上級モデルに『プログレッシブ・ハンマー・アクション鍵盤（エスケープメント付き）』を採用してまいりました。この鍵盤では、グランドピアノ特有の『クリック感』を再現。フルコンサート・グランドピアノの弾き心地を忠実に再現したこのPHA鍵盤（エスケープメント付き）は、多くのピアニストからも高い評価を頂いてまいりました。そして、さらにブラッシュアップした新開発のPHA II アイボリー・フィール鍵盤は、この秋に発売予定のローランドピアノ・デジタル RG-3への搭載を皮切りに、上級モデルに採用する予定です。また、新しい鍵盤は、この秋より本社工場に導入したR.I.K.A. (Roland Integrated Keyboard Assembly) ラインで生産されます。自動組み立て、自動検査、搬送を組み合わせたこの新しいラインにより、生産の効率化と品質の高い鍵盤を組み立てることが可能になります。この新しい鍵盤の優れたタッチと質感の高さを販売店の店頭にてお確かめください。



ROLAND PIANO DIGITAL
RG-3

象牙調の白鍵、そして黒檀調の黒鍵には吸湿性のある新素材を採用。指に馴染みやすい感触を実現しました。



打鍵の途中で、構造的にハンマーがアクションから離脱（エスケープメント）する際、指に伝わってくるグランドピアノ特有の『クリック感』を再現。



新しい鍵盤生産ライン「R.I.K.A.」

会社の概況

会社の概要 (2006年9月30日現在)

商号 ローランド株式会社 (Roland Corporation)
 設立 1972年4月18日
 資本金 9,274百万円
 主な事業内容 電子楽器、電子機器およびそのソフトウェアの製造
 販売並びに輸出入
 従業員数 729人

役員の内訳 (2006年9月30日現在)

取締役会長 (代表取締役) 檀 克 義
 取締役社長 (代表取締役) 田 中 英 一
 専務取締役 西 澤 一 朗
 常務取締役 近 藤 公 孝
 取締役 三 木 純 一
 取締役 柳 瀬 和 也
 取締役 デニス・フォーリハン
 取締役 ジョン・ブース
 取締役 富 岡 昌 弘
 常勤監査役 庄 司 東 生
 常勤監査役 河 合 保
 監査役 川 島 実
 監査役 前 川 三 喜 男

特別顧問 梯 郁 太 郎
 会計監査人 監査法人トーマツ

(注) 監査役 川島 実氏および前川 三喜男氏は、会社法第2条第16号に定められる社外監査役です。

事業所 (2006年9月30日現在)

本社工場 静岡県浜松市細江町中川2036-1
 工場 都田工場、伊左地工場、松本工場
 研究所 浜松研究所
 試験センター 都田試験センター
 流通センター 浜松流通センター
 国内オフィス 札幌、東京、名古屋、大阪、福岡
 海外オフィス ロッテルダム
 音楽教室 ローランドRMS音楽教室直営センター
 北海道センター、首都圏センター渋谷、東海センター
 一佐鳴台、東海センター、関西センター京都、関西
 センター梅田、広島センター、福岡センター

グループ各社 (国内) (2006年9月30日現在)

製造 ボス株式会社
 製造販売 ローランド イーディー株式会社
 製造販売 ローランド エンジニアリング株式会社
 製造販売 ローランド ディー・ジー 株式会社
 製造販売 アトリエビジョン株式会社

グループ各社 (海外) (2006年9月30日現在)

販売 Roland Corporation U.S.
 Roland Systems Group U.S.
 Roland Canada Ltd.
 Roland Brasil Importação, Exportação Comércio, Representação e Serviços Ltda.
 Roland Corporation Australia Pty.,Ltd.
 Roland (U.K.)Ltd.
 Ediol Europe Ltd.
 Roland Elektronische Musikinstrumente GmbH.
 Roland Central Europe n.v.
 Electronic Musical Instruments Roland Scandinavia a-s
 Roland Iberia. S.L.
 Roland (Switzerland) AG
 Roland Italy S.p.A.
 Roland East Europe Ltd.
 Roland Taiwan Enterprise Co.,Ltd.
 Roland Asia Pacific Sdn.Bhd.

製造 Rodgers Instruments LLC
 Roland Taiwan Electronic Music Corp.
 Roland Electronics (Suzhou) Co.,Ltd.
 Roland Europe S.p.A.

物流 Roland (Shanghai) Logistics Co.,Ltd.

株式の状況

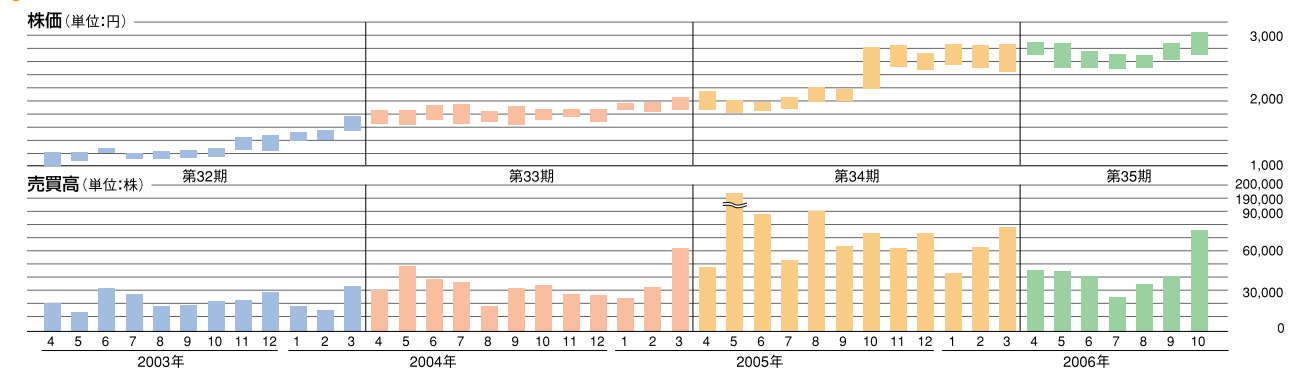
株式の状況 (2006年9月30日現在)

発行可能株式総数	60,000,000株
発行済株式総数	25,572,404株
自己株式数	462,012株
株主数	4,300名

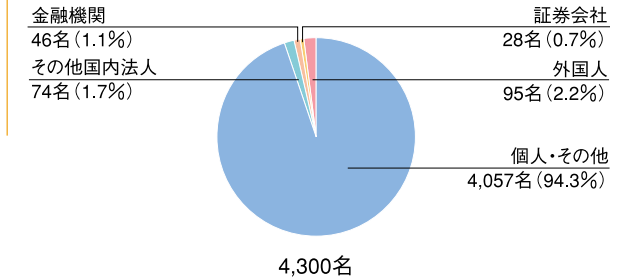
大株主 (2006年9月30日現在)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
財団法人ローランド芸術文化振興財団	2,335	9.1
ノーザントラストカンパニー(エイブイエフシー)サブアカウント アメリカンクライアント	2,089	8.2
梯 郁太郎	1,507	5.9
バンク オブ ニューヨーク ヨーロッパ リミテッド ルクセンブルグ 131800	1,424	5.6
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	1,318	5.2
日本ラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	1,015	4.0
パイオニア興産株式会社	800	3.1
ローランド社員持株会	661	2.6
株式会社りそな銀行	561	2.2
モルガン スタンレー アンド カンパニー インターナショナル リミテッド	554	2.2

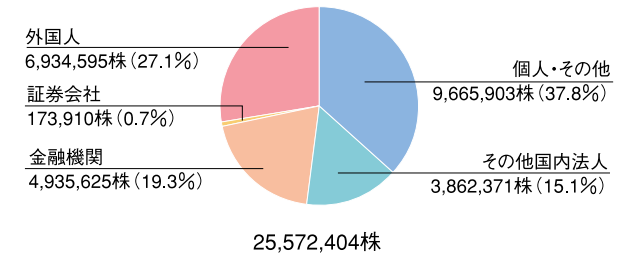
株価及び売買高の推移 2003年4月~2006年10月



所有者別株主分布状況 (2006年9月30日現在)



所有者別株式分布状況 (2006年9月30日現在)



株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 6月

単元株式数 100株

基準日 定時株主総会 3月31日

期末配当金 3月31日

中間配当金 9月30日

(その他必要があるときは、あらかじめ)
公告して定めます。

上場証券取引所 東京・大阪証券取引所市場第一部

株主名簿管理人 大阪市中央区北浜二丁目4番6号

株式会社だいこう証券ビジネス

同事務取扱場所 〒541-8583

大阪市中央区北浜二丁目4番6号

株式会社だいこう証券ビジネス

本社証券代行部

(各種お問い合わせ) 電話0120-255-100

※株式関係のお手続用紙のご請求は次の

電話番号およびインターネットで24時間

承っております。

電話0120-351-465

<http://www.daiko-sb.co.jp>

同 取 次 所 株式会社だいこう証券ビジネス 各支社

配当金口座振込のおすすめ

配当金のお受取りは、口座振込が便利です。口座振込の場合は、支払開始日に自動的にご指定口座へ入金させていただきますので、受取り忘れといったこともなくなり安心です。口座振込による配当金のお受取りをご希望の場合は、当社株主名簿管理人（株式会社だいこう証券ビジネス）に「配当金振込指定書」をご請求ください。

単元未満株式買増制度のご案内

当社は単元未満株式の買増制度を採用しております。この制度は、株主様が1単元（100株）に満たない株式を所有されている場合、1単元に不足する株式を売り渡すよう発行会社に請求し、1単元を買増することができる制度です。例えば、当社株式150株を所有されている場合、当社に50株の買増しをご請求いただき、所有株式を200株にすることができます。具体的なご請求手続きや代金の支払方法などにつきましては、当社株主名簿管理人（株式会社だいこう証券ビジネス）にお問い合わせください。

なお、単元未満株式の買取請求につきましても、引き続きお手続きいただけますので、買取をご希望される場合は、当社株主名簿管理人までお問い合わせください。

 **Roland**
WE DESIGN THE FUTURE

<http://www.roland.co.jp/>

 
本紙は再生紙（古紙/リサイクル100%）、大豆油インキを使用しています。